

① 子供の声 (アンケート)

② 子供の成長を予測する

成長を見積もる

- ・強肯定「当てはまる」に注目する。
- ・ア～エの項目の中で、〇〇に着目し、全職員で共通実践として取り組めば、きっと子供たちは、「1年後に10人中〇人が当てはまる(強肯定)と答える」であろう。

教職員の感覚「取組により子供たちはこのくらい成長するだろう」(成長の見積もり)と、**子供の実際の成長が一致する**
 ⇒ **子供の声が聞けている**
 (取組が浸透している)

地域にとって
 すべての教職員にとって
 すべての児童生徒にとって
 子供たちの不安解消
 小学7年生 中学0年生の取組
 小中のなめらかな接続
 小小連携
 新規不登校0
 いじめ0

菊川市では「学びの庭」(学舎)で「魅力ある学校づくり」に取り組んでいます!



菊川市の「魅力ある学校づくり」についてもっと深く知りたい方は、こちら

令和元・2年度「魅力ある学校づくり」調査研究事業 菊川市成果報告会オンデマンド配信中



⑤ 進捗状況を確認しながら子供の声でチェック!

短期で結果が出てほしい取組なのか(学期・ステージ)

長期で結果が出ると思われる取組なのか(1年後)

予測通りの手応え 思ったより効いていない?

そのまま(ズレなし) 仕掛け直し(ズレの修正)

そもそも、一律同じことをやってもうまくいく活動はあるのか?
 →子供の声を聞けていないのでは?
 →教職員がやらされ感を感じていないか?
 活動の形骸化

日常の実践を「問い直す」PDCAサイクル



③ 教育活動をプロデュースする



教職員の行っている教育活動は、「どれも子供たちにとって+ (プラス) の取組」でも...

子供たちのためになっていたのか? 本当に効果はあったのか?

- 子供に目的や意図は伝わっているか。
- 一部の子供の活動になってはいないか。
- 教職員の自己満足になってはいないか。

④ 具体的な取組例

目標指標「学校が楽しい」(中学1年生)



わからん印&わかった印で授業の困り感を共有 学級MVPを授業で活躍した人から選ぶ取組 → 授業がよくわかる → 学校が楽しい

目標指標「授業に主体的に取り組んでいる」(中学2年生)



授業に主体的に取り組ませたい → アンケート考察から、行事で大きく伸びる傾向 日常をイベント化し、行事の成長を持続する試み → 主体的とは何か MSS (もっとも主体的な生徒) → 不登校が少ない

目標指標「みんなで何かをするのは楽しい」(中学3年生)



中2 3月 アンケート 低調 → 不登校 相談室 多い → みんなで何かをする楽しさを感じさせたい 学校が楽しいところだと感じてほしい